

原子力空母の危険性 Part.4

配備から2年、原子炉周辺の工事が2回。横須賀はどうなっていくのか !!



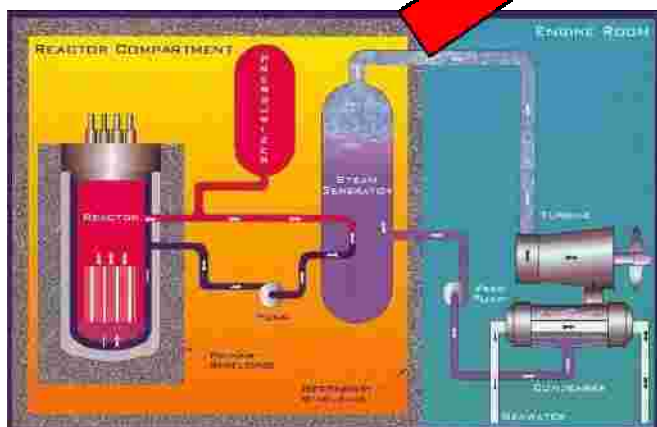
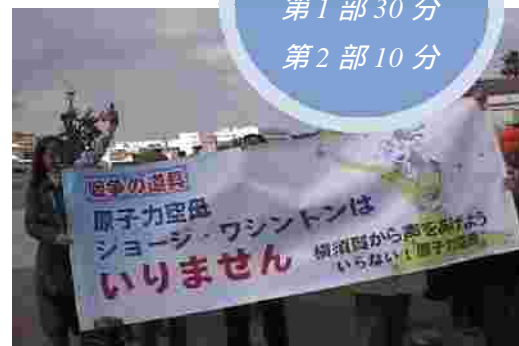
原子炉周辺のメンテと修理が艦内で行われた

空母ジョージ・ワシントンから放射性廃棄物の入ったコンテナが運び出された。2010年4月

DVD Video

第1部 30分

第2部 10分



第1部 1964年、原子力潜水艦の入港に先立って締結されたエドメモアールは、どのような論議を経て定められていったのか。1968年に佐世保で起きた原潜ソードフィッシュの放射能漏れ事故に日米両政府は、どう対応したのか。「燃料交換及び動力装置の修理は行わない」というエドメモアールの約束が、なぜ破られてしまったのか。何度も起きた異常放射能の原因究明がいつも曖昧にされてしまうのは何故なのか。原子力艦船入港と原子力事故の歴史を振り返り、現在の問題点を明らかにします。



原子力空母ジョージ・ワシントンが12号岸壁に停泊

第2部 2008年5月に艦内で起きた大規模火災、アメリカ海軍の報告書から空母の運用実態を検討。2003年には艦載機の着艦失敗事故も起きていました。横須賀市の原子力防災訓練の変遷を追い、私たちの課題を問いかけます。

原子力潜水艦が13号岸壁に停泊

原子力艦船の年間入港日数は195日 324日に増加。このままではあまりにも危険